

NEXCO東日本の営業概要 ～営業延長は3,943km、建設延長は85km～

1. 営業の状況

(1) 通行台数、料金収入の状況(第3四半期累計及び年間累計)

	第3四半期 累計	対前年比	対前々年比	令和3年度 累計	対前年比	対前々年比
通行台数 (千台・日平均)	2, 924	103. 5%	98. 7%	2, 773	106. 9%	91. 8%
料金収入※ (百万円・税抜)	201, 306	106. 2%	98. 3%	571, 986	110. 4%	90. 0%

※参考値(速報)のため、料金収入の確定値とは一致しない可能性があります

(2) 車種別の走行台キロ(第3四半期累計及び年間累計)

対前年同期比

	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車	合計
第3四半期累計 (対前々年比)	106. 0% (97. 6%)	105. 0% (93. 0%)	101. 7% (95. 1%)	103. 1% (98. 4%)	107. 7% (88. 6%)	104. 5% (94. 4%)
令和3年度累計 (対前々年比)	109. 4% (84. 6%)	107. 7% (78. 9%)	103. 9% (93. 5%)	105. 2% (97. 6%)	111. 9% (81. 8%)	107. 1% (83. 4%)

※高速自動車国道のみ

2. ETCの利用状況

ETC利用率(12月)	ETC2. 0利用率(11月)
92. 2%	27. 8%

【関東地区 主要本線料金所及び路線のETC利用率】

関越道:新座94. 9%、東北道:浦和96. 0%、常磐道:三郷95. 4%、東関東道:習志野95. 2%
東京湾アクアライン:98. 2%、東京外環道95. 7%

3. サービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)の状況

(1) 営業施設のあるSA・PA

196カ所(SA:78、PA:118)

(2) 売上高(第3四半期累計及び年度累計、百万円)

項目	売上高 (第3四半期累計)		売上高 (令和3年度累計)		対前年比	対前々年比
	対前年比	対前々年比	対前年比	対前々年比		
飲食・物販	21, 039	109. 3%	87. 5%	55, 106	116. 2%	68. 4%
G S	15, 227	126. 7%	106. 5%	41, 210	129. 5%	96. 3%
合計	36, 267	116. 0%	94. 5%	96, 316	121. 5%	78. 1%

※端数処理の関係で合計が合わないことがあります

(参考) コロナ禍における交通量の推移

新型コロナウイルス感染症が国内で拡大し始めた令和2年3月以降、現在まで新型コロナウイルスの感染拡大が高速道路における交通量への影響を与えている。

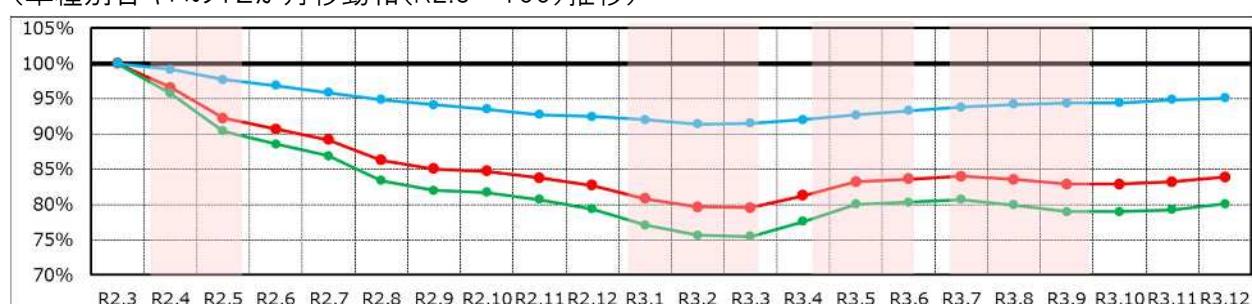
○令和2年3月以降における車種別交通量の推移

- ・小型車類(軽自動車等・普通車)は、新型コロナ感染拡大や緊急事態宣言等の発令に応じて交通量が減少する傾向。
- ・大型車類(中型車・大型車・特大車)は減少傾向にあるものの、小型車類より安定的に推移。大型車は貨物輸送量に関連して増減する傾向にあり、特大車は貨物輸送量の増減に加えて観光バスの減少の影響も受け、低調に推移しているものと考えられる。

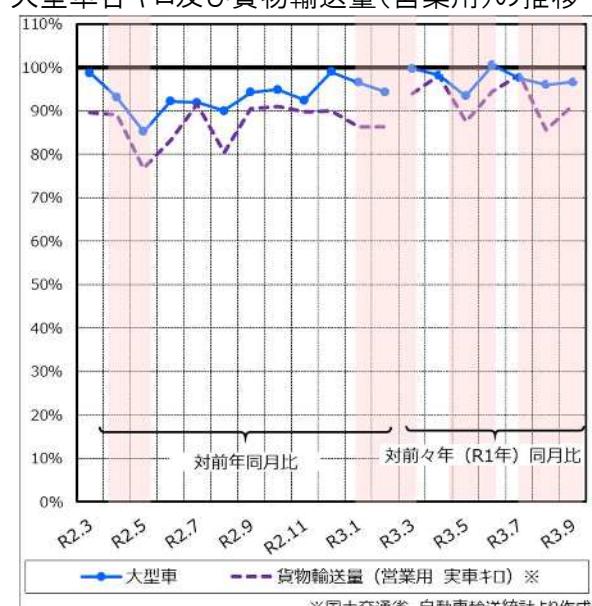
【NEXCO 東日本管内 高速自動車国道における車種別台キロの推移】



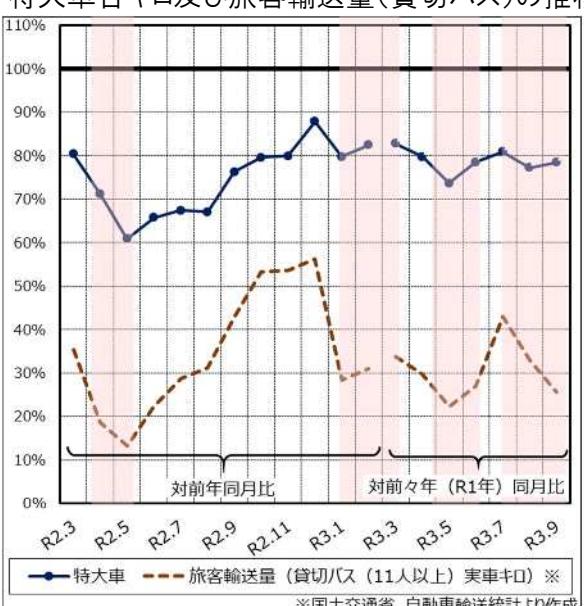
(車種別台キロの12か月移動和(R2.3=100)推移)



大型車台キロ及び貨物輸送量(営業用)の推移



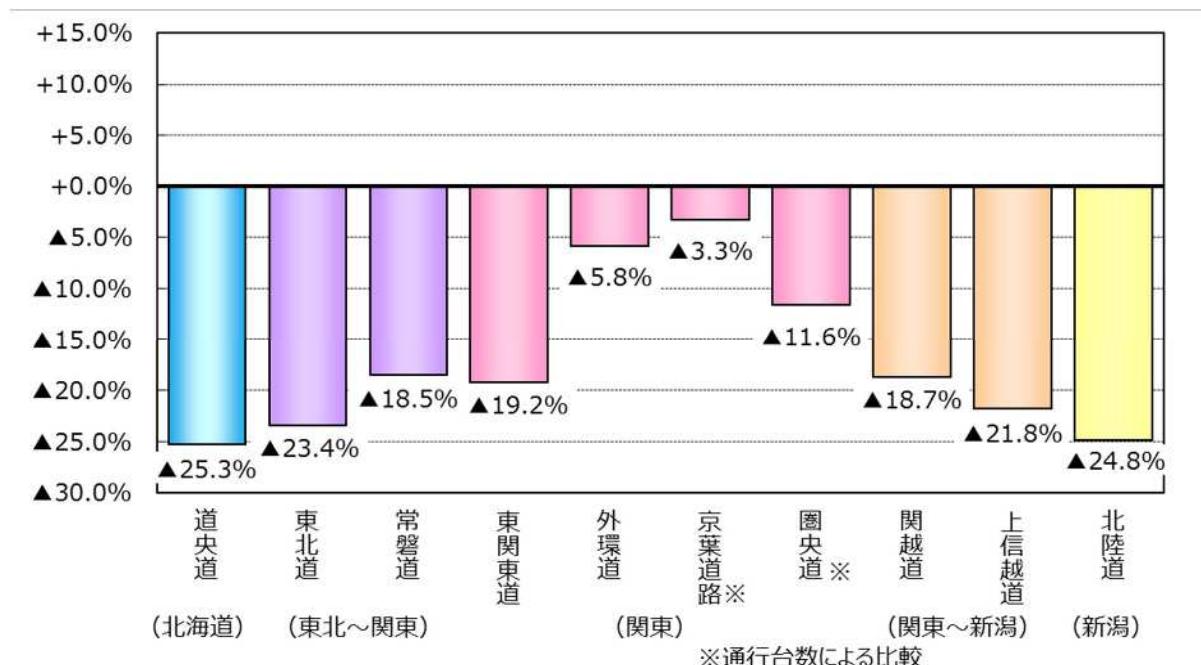
特大車台キロ及び旅客輸送量(貸切バス)の推移



○路線別交通量

- ・小型車類は、道央道、北陸道、東北道等で減少率が高く、首都圏に近い京葉道路や外環道では減少率が低い傾向。地方への観光や帰省等が控えられたことにより、主に地方部に位置する路線で減少率が高くなったものと考えられる。
- ・大型車類は、東関東道や道央道で減少率がやや高い傾向。隣接する空港の減便の影響を受けているものと考えられる。
- ・加えて道央道(北海道)においては、道外との往来の減少も一因と考えられる。

【路線別走行台キロ(R2~3年平均/R1年);小型車類】



【路線別走行台キロ(R2~3年平均/R1年);大型車類】

